

平成 26 年度（2014 年度）
吹田市立図書館点検・評価報告書

平成 28 年（2016 年）3 月 23 日

吹 田 市 立 図 書 館

この点検・評価報告書は、図書館法（昭和25年4月30日法律第118号）第7条の3に基づき、吹田市立図書館の運営の状況について自己評価を行うとともに、図書館協議会による外部評価をいただいて作成し公表するものです。

吹田市立図書館は、「吹田市立図書館基本構想」（平成25年4月策定）を策定し、平成25年度（2013年度）から10年間の図書館活動の指針を明らかにしています。その第2章3のサービス計画の中で3つの基本目標を設定しています。この基本目標に沿って作成したアクションプラン（別表）の課題と各事業について自己評価と外部評価を行います。

吹田市立図書館の3つの基本目標

基本目標 1 地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。

基本目標 2 生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。

基本目標 3 子育てや学校の支援を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。

評価の基準

- A 計画どおり取組みを実施し、目標を上回る成果があった。
- B 目標どおり取組みを実施し、一定の成果をあげた。
- C 取組みを実施したが、十分な成果をあげることができなかった。
- D 実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。

この基本目標とその取組みごとに、図書館の自己評価をするとともに、図書館協議会より外部評価を得るものとします。

〔凡例〕

※文中網掛け部分は、「平成26年度（2014年度）吹田市立図書館の基本方針と目標」【主な事業の計画】に掲載しているものです。

※文中、表に示している図書館名は次のように省略しています。

中央図書館→「中央」、千里図書館→「千里」、千里図書館北千里分室→「北千里」、さんくす図書館→「さんく」、江坂図書館→「江坂」、千里山・佐井寺図書館→「ちさと」、千里丘図書館→「千里丘」、山田駅前図書館→「山駅」、山田駅前図書館山田分室→「山田」

基本目標 1

地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。

取組み 1 図書館施設及びサービス網の整備

(1) 中央図書館の充実（再整備）

- ア 中央図書館の整備計画策定を目指し、関係部署との調整を図る
市の施設の維持管理と適正化を目指した吹田市公共施設最適化計画推進委員会作業部会において老朽化した図書館施設の見直しなど再整備の議論を続けました。
- イ 新・中央図書館建設時に書庫機能の整備を図る

(2) 図書館利用不便地域の解消

- ア 岸部地域への施設整備を行い図書館サービス網の完成を図る
適地の選定に向け、庁内協議を行っています。
- イ 自動車文庫の駐車場所の見直し等
小中学校への「もうよんだかなセット」の配達及び回収や、ごりまる便、ごりまる学校訪問を実施しました。ルートの見直しなどで、図書館整備の遅れている岸部地域への新たな巡回計画を立てました。
*平成27年度から岸部第二小学校等4駐車場所に巡回を開始

(3) 図書館の広域利用促進

ア 北摂地域全体の広域利用システムの検討

(ア) 豊中市（試行）

利用の均衡を目指し、平成25年4月から豊中市、吹田市の広域利用ができる館を各市1館ずつ増やし、互いに4館ずつとしました。引き続き試行しています。

豊中市との広域利用統計				
	平成25年度		平成26年度	
	延利用者数（人）	貸出冊数（冊）	延利用者数（人）	貸出冊数（冊）
豊中市民利用	7, 876	19, 388	8, 639	21, 223
吹田市民利用	11, 594	33, 063	10, 949	31, 159

イ 大阪市との広域利用

平成26年7月から大阪市民がさんくす図書館を利用することができるようにしました。

平成26年度 大阪市民 延利用人数 1, 258人
利用冊数 3, 294冊

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

A

〔成果1〕中央図書館の再整備については、図書館協議会でも答申作成に向け積極的に意見をいただき、現時点で最良の施設を整備していきたいと考えます。引き続き関係部局に働きかけを続けました。

〔成果2〕利用不便地域の解消に向けては、関係部局への働きかけとともに、27年度に向けて自動車文庫の活用を決定しました。

〔成果3〕図書館の広域利用では、前年度、豊中市との協定により山田駅前図書館を広域利用館に増やしたため、豊中市民の利用が、人数、冊数ともに増加しました。吹田市民の豊中市図書館の利用は微減しました。はっきりした理由はわかりませんが、一定の落ち着きを見せたものではないかと考えます。7月から永年の懸案であった大阪市との広域利用を開始することができました。また、摂津市との広域利用の実現に向けて協議をすすめました。広域利用については近隣各市とも、積極的に進めていく状況であると考えています。

〔課題〕岸辺駅前での図書館整備に向けて関係部署との協議を続けます。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

A

〔成果〕中央図書館整備策定について議論が進み、他部局との調整を前向きに取り組んでいることに期待したい。中央図書館の再整備構想も具体性を帯びてきた。

自動車文庫「ゆめぶんこ」の駐車場見直し岸部地区への巡回検討も、地域の状況に合わせての状況判断がサービス向上に結びついており、全域サービス強化の面で重要である。図書館として行政への働きかけの努力があったことは評価したい。

隣接他市との広域利用では豊中市や大阪市との広域利用拡大の試みが次々と実現し千里中央の図書館の利用が好評であるなど、利用者にとっては大きな利便性をもたらす高評価できる。

〔課題〕全域サービスの中で岸部地区、北千里地区の整備の努力を継続して欲しい。

取組み 2 利用促進

(1) 年間貸出冊数の目標達成

平成26年度貸出点数			
実績	3,497,140点	目標値	約368万点

平成34年度末に人口一人あたり12点を目標に掲げ、約432万点の貸出を目指しています。平成26年度の目標は約368万点で、目標への達成率は95.0%でした。

(2) 広報、情報発信機能の推進

ホームページコンテンツの充実と Twitter や Ustream の利用で情報発信機能の向上を図る。

公式アカウントによる「Facebook」「Twitter」での情報提供等、コンテンツの充実を図りました。

ホームページアクセス推移 (件数)		
	平成25年度	平成26年度
トップページ	1,566,089	2,015,633
蔵書検索	4,042,650	5,053,134

(3) 来館困難な人へのサービス

ア 郵送貸出の実施

障がい者以外の図書館への来館に困難を伴う方々への郵送貸出については未検討。

イ 電算システム更新時に電子図書の導入を行う

平成26年度は、行政資料等のデジタル化とホームページでの公表のための調査研究を行いました。

※平成28年2月から写真を含めたデータベースを公開します。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

B

〔成果〕「Facebook」「Twitter」「メルマガ」での情報提供を実施しています。「メルマガ」では行事開催案内、調べものや郷土の資料の紹介。「Facebook」では写真を使った行

事報告「Twitter」では、おすすめの本を毎日紹介することで、読みたくなる、行きたくなる仕掛け作りをしています。

〔課題1〕貸出は目標点数に達しませんでした。中央、江坂、千里丘、北千里分室で合計35,590点の伸びがありましたが、その他の館の減少が大きく全体では13,700点の増加にとどまりました。達成率が下がった理由は、最終目標値を年度案分して平準化して高くしているためです。

全体的な貸出量の増加が鈍化している理由は、新規登録者が増えず、結果的に全登録者数の増加が794人とどまったためと考えられます。

〔課題2〕広告付きブックスタート用袋の提供については、引き続きリサーチを続けます。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

〔成果〕平成22年度から年間個人貸出と団体貸出統計は37.9%と大きく伸びている。山田駅前、千里、千里丘図書館の市内拠点の整備が効果を上げていることがはっきり現れている。利用者層も30歳代40歳代の利用が突出していることも忙しい世代も利用しやすいサービス環境を整えていることが功を奏している。

〔課題〕平成26年度の吹田市内の登録者が110,836人（登録率30.54%）は決して少なくない。しかし新規登録者が実質794人というのはさすがに少ない。図書館事業の根幹に関わることだと思いますので、是非このことが改善されることを望みます。

平成22年度に比較しても資料費が減少している。平成23/24/25年度の新館開館を経ても、資料費が増加していないのは市民サービスの点から不安が残る。

レシート広告、バナー広告、ブックスタート用袋の提供は地元こんな企業があるのだと利用者も認識できる。民間事業者にとっては公共図書館と広告という点あまり結びついていない実情なので、図書館側から積極的な働きかけをしないと、成果が現れないだろう。時間をかけて、拡大して欲しい。収入という利点は大きくなくても、ビジネス支援にも結び付く図書館のイメージづくりになる。

FacebookやTwitterで広報される情報に関し、本の紹介だけでなく、図書館の上手な使い方、資料の探し方、サービスに関する広報など、内容の充実を図っていただきたい。

来館困難者への対応については自治会、老人会連携も考慮に入れ地域の活性化に合わ

せていくような取組はできないか。

取組み3 資料と情報の提供

(1) 成人サービス

ア 読書情報の提供（おすすめ本やパスファインダー等）

読書の楽しみを知ってもらうために各館で特設コーナーを設置しました。設置に合わせて、リストの作成などを行いました。25年度から「Twitter」による図書の紹介をしています。成人サービス担当で健康情報のパスファインダー(※)を作成し、各図書館で設置しました。

※パスファインダー：テーマ別の課題解決のためのお助けノート（図書リストを含む）

イ 各種図書館講座の充実と文化行事の実施

平成26年度成人向け講演会等行事参加人数			
実績	4,926人	目標値	1,200人

※リサイクルフェアを除く

【成人向け講演会等行事参加人数内訳】

	中央	千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	計
回数	9	11	12	13	17	8	13	83
人数	199	2,196	677	1,113	386	133	222	4,926

ウ 行事の開催等による新規利用者の獲得

ビブリオバトルや推し本選手権等の利用者参加型行事を企画しました。千里図書館やさんくす図書館の多目的室を利用した各種展示が好評でした。スポーツ推進室との連携事業で運動講座を実施し各館で好評を得ています。

(2) レファレンス事例や郷土資料データベースの充実

ア レファレンス（調査回答）件数

	中央	千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	計
一般	2,491	6,178	3,850	751	6,091	2,234	5,321	26,916
児童	581	1,172	433	144	1,419	858	1,026	5,633
計	3,072	7,350	4,283	895	7,510	3,092	6,347	32,549

※クイックレファレンス（書架案内や簡単な調査）を含みます。

※北千里分室は千里図書館に、山田分室は山田駅前図書館に含めます。

イ レファレンス事例のデータベース化

吹田市立図書館で調査回答したレファレンス事例を国立国会図書館のレファレンス

協同データベースに登録、公開し感謝状を贈呈されました。今後もレファレンス能力の充実に努力していきます。

ウ 郷土行政資料の収集保存とデータベース化

郷土行政資料新規受入数 884冊

新聞等郷土件名データ新規作成件数 1,618件

エ 大学図書館や類縁機関との連携

類縁機関、大学などに閲覧、複写希望の方の紹介状を発行しています。

大学との連携協力に関する基本協定に基づき、各大学との連携を行います。平成26年度は新設の大和大学との連携会議に出席して、利用に関するPRを行いました。

(3) 行政支援サービス

ア 公用貸出冊数（市職員への業務用貸出数）

平成26年度 76冊

イ 行政向けの政策立案支援サービス

行政職員向け新着図書案内サービスを開始し、問い合わせも何件かありました。今後は本庁に向けての利用促進に取組み、図書館の存在をアピールします。

(4) 児童サービス

ア 各種図書館講座の充実と文化行事の実施

平成26年度児童向け講座等行事参加人数			
実績	11,769人	目標値	2,800人

※児童文学関係講座、抱っこで絵本講座を除く

【児童向け講座等行事参加人数内訳】

(ア) おはなし会（「おひざで絵本」をのぞく）

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	138	87	20	115	49	43	21	65	8	546
人数	1,336	618	65	539	296	420	110	497	205	4,105

(イ) まつり、おたのしみ会、一日図書館員、その他

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	56	25	9	26	11	25	24	30	10	216
人数	1,951	782	309	756	304	1,695	714	921	232	7,664

イ 図書情報の提供

平成26年度冊子発行部数 (てくてくを含む)			
実績	17,246部	目標値	13,000部

【情報提供冊子発行部数内訳】

(ア)「おめでとう1年生」配付部数 4,246部

(イ)「もうよんだかな? '14 (第40号)」 8,500部

※「おめでとう1年生」は、市立小学校の1年生全員に利用案内やおすすめ本の紹介の載ったリーフレットを配付し、各図書館で4月に特設コーナーを設置しています。

「もうよんだかな?」は、4、5歳から小学校高学年を対象に、前年に出た本のなかからおすすめの本を図書館の司書が選び冊子にして紹介しています。夏休みに特設コーナーを設置しています。

(ウ) 児童向けホームページの開設

次期図書館システムでの開設を検討しています。

※平成28年2月に公開。

(5) ヤングアダルト (YA) サービス

※中高生世代向けサービス

ア YA サポーター行事参画状況

中高生世代の行事参加人数			
実績	95人	目標値	40人

【行事参加人数内訳】

(ア) YA サポーター活動状況

中央図書館 8回 参加人数 35名

山田駅前図書館 4回 参加人数 17名

(イ) YA ビブリオバトル実施

中央図書館 7月27日 参加人数 25名

山田駅前図書館 3月15日 参加人数 18名

※参加人数は成人を含みます。

イ 「てくてく」の発行部数

平成26年度 4,500部

※「てくてく」は、中高生世代を対象に、前年に出た本のなかからおすすめの本を図書館員が紹介するとともに、吹田市の中高生世代によるおすすめ本の紹介とイラストなども掲載している冊子です。ミニ版 (ダイジェスト版) は、市内中学生全員に配付しています。夏休みに特設コーナーを設置しています。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

A

〔成果1〕各世代に向けた幅広い資料の収集提供につとめ、資料に結び付ける機会を提供するために行う行事等の参加人数は成人、児童向けともに目標値を上回りました。多くの人に図書館をPRするとともに、資料の貸出しやその後の図書館利用につながるような取組みを行いました。

〔成果2〕利用増加に課題のあるヤングアダルト（YA）サービスについては、中央図書館と山田駅前図書館で中高生サポーターを募集し、ビブリオバトルなどの行事に企画から取り組むことができました。活動の中でサポーター通信を作成し自分たちの活動のアピールができました。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

A

〔成果〕ホームページの「調べものに役立つサイト」は各方面に目配りの聞いたリンク集で市民の調査研究に役に立つ。

Facebook は写真も豊富で活動の内容がビジュアルに見える。Twitter はタイミングよく読書や図書館の話題が掲載されて身近に感じられる。

講座やイベントの参加者数が多く、定着してきていることは、事前の準備や広報に努力のあとが感じられ、高評価できる

児童向け講座と学校連携も 18 ページに後述のとおり着実に進められている。

山田駅前図書館を中心とした YA サービスの発展にも期待したい。

〔課題〕本庁の行政向けの政策立案支援サービスについてさらに取り組み内容を検討し、提供する情報内容の充実を図る必要がある。図書館の存在感をアピールしてほしい。今後はこれらがマンネリ化せず常に新鮮な内容で市民から支持されていくことを望みます。

基本目標 2

生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。

取組み 1 施設や地域との連携

(1) 男女共同参画センター情報ライブラリー、平和祈念資料館などとの連携

横断検索や返却本の受付を行い、相互の施設で行事案内を行いました。

(2) 児童会館・児童センターとの連携

図書館の保存年限を過ぎた雑誌を約120冊移譲し、有効活用を図りました。

(3) 地域教育部三室との連携

スポーツ推進室との連携事業の運動講座が好評でした。公民館への講師派遣の回数も増加しています。

(4) 吹田市出前講座の充実と活用

平成26年度出前講座等講師派遣実施件数			
実績	23件	目標値	6件

【出前講座等講師派遣内訳】

館名	中央	千里	さんく	ちさと	千里丘	山駅	計
派遣回数	10	1	2	3	3	4	23
参加人数	237	51	46	183	96	134	747

図書館出前講座メニュー数 8講座

(5) 地域との連携

ア 各図書館で児童サービスコーナーに地域の保育所や子育て関連施設のパンフレットや逐次刊行物を置くなどして地域情報の共有に努めました。

イ 地域の公民館や自治会、隣接する施設に行事等の案内を配布し、図書館利用の促進に努めました。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

A

〔成果〕 出前講座実施件数は目標を上回り達成できました。職員のさらなる企画力アップを図り講座内容の充実に努めます。

〔課題〕他部署との連携をさらに進め、信頼できる施設としての位置づけを得るようにします。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価
A

〔成果〕各館ごとの行事・講座は地域性を活かしながら多数実施されている。対象年齢も幅広く、利用者参加型の行事も多く取り組まれている。出前講座など図書館から出かけていくことも充実が図られてきている。

〔課題〕吹田市には生涯学習を支援する多くの施設がある。それぞれ厳しい状況にあると思うが各機関も図書館との連携によって、大きな成果が期待できる。人の活用を考え、コミュニケーションを大事にしながら、連携を強めて欲しい。

取組み2 自己実現の援助

(1) ボランティア活動の推進

平成26年度ボランティア総数			
実績	530名	目標値	645名

※目標値は平成34年度に1000名登録を目標に、年45名増を目指しています。

ア ボランティア登録状況 25団体 530名 (達成状況82%)

※平成25年度 ボランティア登録状況 25団体 550名

イ ボランティア養成状況

(ア) 児童サービス関係

- ・ブックスタートのためのお話ボランティア養成講座 6回 延人数 160人
- ・ブックスタートのためのお話ボランティアスキルアップ講座 1回 49人
- ・おひざで絵本のためのお話ボランティアスキルアップ講座 1回 56人

(イ) 障がい者サービス関係

- ・音訳対面朗読ボランティア養成上級講座 20回 延人数 193人
- ・音訳対面朗読スキルアップ講習会 8回 延人数 71人
- ・デージー図書製作・編集・使い方講座 8回 延人数 58人
- ・点訳ボランティア養成初級講座 10回 延人数 18人

ウ 主なボランティア活動状況

- ・ブックスタート実施回数 1,206回
- ・おひざで絵本実施回数 446回
- ・対面朗読実施回数 590回
- ・音訳・点訳図書製作数 134タイトル

- ・主催行事（図書館フレンズを除く） 1, 602回
- ・図書館フレンズ活動回数 300回（延参加人数 661人）

【図書館フレンズ活動回数内訳】

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	66	32	2	21	26	50	77	25	1	300
人数	224	55	5	33	47	107	154	35	1	661

(2) 自己実現へ向けての動き

千里図書館で開催した自分史講座の受講生による「吹田自分史の会」が設立され、その後も活動を継続されています。

(3) 各事業への市民参画による企画立案

ア 市民参画による行事の企画

YAサポーターで行事の企画に取り組みました。

イ 市民団体等の企画による行事

図書館名	ボランティアグループ等の企画による実施行事	企画グループ等名称
千里	手作り絵本展 さわる絵本展	手づくり絵本夢工房 さわる絵本の会つみき
ちさと	暮らしに役立つ講座	吹田図書館ともの会
江坂	江坂ロビーフェスタ	技芸精舎

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

B

〔成果1〕平成25年度に比較してボランティアの登録人数は、高齢化の影響等でわずかに減少しています。一方図書館で養成しているボランティア数は増加しました。

〔成果2〕市民団体等の企画による行事を主催、共催等様々な形で実施しました。また「図書館講座じゅずつなぎ」で吹田にゆかりのある人や地域住民を講師に招いた講座を実施して市民参画による主催事業の充実に努めました。

〔課題〕ボランティア登録数が目標に達しませんでした。講座修了者の登録促進や継続促進に努め、長く続けていただける仕組みや気軽に参加できる仕組みを考えます。

〔課題〕 催し物や各種講座等の企画段階からの市民参画を目指します。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価
A

〔成果〕 図書館でのボランティア活動は図書館と市民の協働事業として定着してきた。特に乳幼児・児童へのサービス、障がい者へのサービスでは質の高いサービスを提供できている。

図書館は市民に自己実現の場を提供しており、「図書館ともの会」「図書館フレンズ」「読書工房」などの一般ボランティアも地域性を活かしながら活動している。

江坂ロビーフェスタは「江坂花とみどりの情報センター」と連携した多彩なイベントで図書館がある地域の施設として魅力がある。

〔課題〕 全国の各地でも図書館が市民協働施設の拠点として機能する例が報告されている。中央図書館再整備の議論の過程で、市民参画の要素を取り入れて欲しい。

ボランティア登録者数は平成34年度1000名登録を目標ということだが、登録者数が多ければ良いというものではない。場数をふまなければボランティアのスキルアップにつながらないので、ボランティア数と活動回数と参加者数（対象者数）の両面を考えて、図書館ボランティアを必要とするケースに見合ったボランティアのスキルアップ支援を実施しながら、より活発な図書館ボランティア活動を期待したい。

取組み3 高齢者・障がい者サービスの充実

（1）視覚障がい者サービス

ア 対面朗読実施回数 590回

※平成25年度 666回

イ 音訳図書・点訳図書製作件数 155タイトル

（ア）テープ図書 53タイトル ※平成25年度 55タイトル

（イ）デージー図書 81タイトル ※平成25年度 58タイトル

（ウ）点訳図書 21タイトル ※平成25年度 13タイトル

ウ 音訳図書貸出件数 2,780タイトル

※平成25年度 1,922タイトル

（2）来館困難者へのサービス

ア 千里丘図書館でデイサービス型高齢者施設への訪問事業を行いました。

- イ 自動車文庫による福祉施設等への貸出 12施設 貸出冊数 5,786冊
- ウ 身体障がい者等への郵送貸出については実施に向けて検討中です。

(3) 聴覚障がい者サービス

- ア 職員の手話講座受講
- イ 講座への手話ボランティアの配置

(4) 障がい児サービス

- ア 「さわる絵本展」(千里図書館) 参加人数610人
- イ マルチメディアデイジー(映像つきデジタル録音図書)の導入
平成26年度から貸出を開始し、利用案内講座を開催しました。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

A

〔成果1〕平成25年度に比較して音訳図書貸出件数は44.6%増加しました。平成25年度にサピエ(※)に登録し、全国から貸出希望が来るようになったことと、デイジーの普及が原因と思われます。

※サピエ(視覚障害者情報総合ネットワーク):点字データや音声データの全国ネットワーク。

〔成果2〕マルチメディアデイジーの貸出を開始しました。

〔課題1〕対面朗読実施件数の減少は、週1回利用の熱心な利用者が減ったためです。音訳図書の製作件数が減少しています。利用者のニーズの調査などが必要です。

〔課題2〕来館困難者への郵送貸出事業の研究を行いました。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

A

〔成果〕音訳図書の貸出が大きく増加している。サピエの登録で全国からの貸出が増えたのも、従来から音訳やDAISY制作など障がい者サービスに地道に取り組んできた成果がでてきているものと思われる。

マルチメディアDAISYの導入も積極的に行われている。

〔課題〕 障がい者サービスの取組は図書館だけの努力では進まない点も多いので、関係機関との連携で進めて欲しい。

2016年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行される。公共図書館での障がい者サービスの取組み強化がさらに重要となっている。図書館としては車椅子でも自由に動ける書架配置に取り組むなど、すべての人に行き届く図書館サービスにより一層取り組んで欲しい。

取組み4 特色あるサービス

(1) ビジネス支援サービス

江坂図書館においては、関連資料の展示と有料データベース「日経テレコン」の提供を継続し、ビジネス支援に特化した棚作りのための選書を行い、平成27年度中の特設コーナーの設置に向けて準備をしました。

(2) 多文化サービス

ア 多言語による読み聞かせ等行事の実施 ※千里図書館で実施

平成26年度多文化関係行事回数			
実績	7回	目標値	5回

【行事等内訳】

- (ア) 英語でえほんを楽しもう 4回 64名参加
- (イ) インドネシアってどんな国 1回 26名参加
- (ウ) 中国を知ろう 1回 16名参加
- (エ) 大人のための英語絵本講座 1回 36名参加

イ 外国語資料の充実

外国語資料所蔵数 6,043冊

※平成25年度 5,754冊 年間増加冊数 289冊

(3) 健康・医療情報サービス

全館で利用できる医療関係のパスファインダー（調べ方ガイド）を作成しました。千里図書館では、医療健康情報コーナーを設置し、医学書や闘病記などを病気の種類ごとに分類して見やすく並べて貸出しています。

(4) 就労・就業支援

さんくす図書館でコーナーを設置し、就職や仕事に役立つ資料を紹介しています。資格試験の参考書や問題集、「JOB ナビすいた」などの関連施設のパンフレット等を

置いています。

※「JOB ナビすいた」は、吹田市に在住、在学、在勤の方を対象にした市の就労支援センターです。仕事の紹介の他、就労のためのセミナーや相談コーナーなどがあります。

(5) 地域経済への貢献

平成26年度実施事業数			
実施事業数	4	目標事業数	5

【実施事業内訳】

ア Jリーグのガンバ大阪との連携事業(2事業)

(ア) リサイクル本フェア 参加人数 590人

吹田市民応援デーに合わせてスタジアム前で試合開始前にリサイクル本のフェアを実施しました。普段図書館に来ない人を呼び込むと同時に、吹田市立図書館のことをPRすることができました。

(イ) 読書でガンバ

中高生(18歳以下の方なら誰でも)がガンバ大阪の選手に読書についてのインタビューを行い、レポートにしました。作成したレポートをホームページで公開するとともに、各館で展示を行いました。

イ 広告事業や寄付金募集事業などで地域経済の発展に寄与し資料の充実を図る。

地域経済の活性化を目的として、平成24年度から図書館の資料を貸し出す際に発行する貸出レシート及びホームページに民間企業等の広告を掲載する事業を実施しています。

(ア) レシート広告 2社 36,000円

※貸出の時にわたすレシートに広告を掲載するというものです。

平成24年5月から実施。平成25年度 4社 66,000円

(イ) 図書館ホームページバナー広告 3社 52,000円

※図書館のホームページに広告枠を設け掲載するというものです。

平成24年12月から実施 平成25年度 2社 42,000円

平成26年度から引き続き広告付きブックスタート用の袋の提供事業者募集を行い、応募条件の見直し等も行ってきましたが、条件の折り合いがつかず実現していません。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

B

〔成果1〕 英語による絵本の読み聞かせや外国文化を知る講演会を行いました。また、千里図書館と同じ施設内の国際交流協会主催の多言語絵本の読み聞かせ会へ資料提供等の支援を行いました。

〔成果2〕 健康医療情報のパスファインダー（調べものガイド）が完成しました。各館で設置配布しています。

〔成果3〕 ガンバ大阪との連携事業は図書館海援隊サッカー部として取り組みを続けています。平成26年度もスタジアム建設に向け、吹田市として支援し図書館は2事業に取り組みました。

〔成果4〕 広告事業については、前年より収益がアップしました。掲載企業は地元企業が多く、PRに一役買うことで、市内企業の応援になっていると考えます。

〔課題〕 ビジネス支援は、地域の企業や勤務の方に対する具体的な働きかけ等、人の顔が見えるサービスにつなげていく必要があります。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

〔成果〕 千里図書館と国際交流協会との連携は今後も新しい取組みに発展できると期待したい。

ガンバ大阪との取組みはとても魅力があり、若い人へのアピール度も高い。

加えて健康・医療情報サービスなどが、吹田市の特色あるサービスとして印象的なので評価したい。

〔課題〕 吹田市として外国籍の子どもへの対応を手厚くしてほしい。多言語の絵本をそろえて学校へ貸出すなどきめ細かい配慮が望ましい。

ビジネス支援への取組みは、もっと工夫が必要だ。吹田市でも中小企業セミナーや起業支援に取り組んでいるので、関連部署や地元商工会議所との連携で広がりを持つてのではないかと。しかし、巨大ビジネス都市大阪のベッドタウンである近郊市としては、特色ある活発なビジネス支援というものに限界があるのかなとも感じる。

吹田市の医療機関が大きく整備される中で医療情報サービスの新しい取り組みの方法を探りたい。

基本目標 3

子育て支援や学校の連携を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。（「子ども読書活動推進計画（改訂）」の推進）

取組み 1 子ども読書活動支援センター機能の充実

(1) 子育て支援サービス

平成26年度ブックスタートのひろば、おひぎで絵本等参加人数			
実績	21,057人	目標値	23,000人

【参加人数内訳】

ア ブックスタート事業

年度	絵本配布率	ひろば開催回数	ひろば参加人数
平成26年度	83%	1,206回	16,856人
平成25年度	80%	1,197回	15,065人

イ おひぎで絵本 ブックスタートを終了した2、3歳児とその保護者を対象にした読み聞かせの会

年度	開催回数	参加人数
平成26年度	446回	4,201人
平成25年度	433回	4,044人

ウ 抱っこで絵本講座

※1歳の幼児とその保護者を対象に絵本の読み方のコツを伝授する3回連続講座

平成26年度 48回 参加人数 530名

エ 保健師のなんでも相談 3館 4回 参加人数 88名

0、1歳児の幼児とその保護者を対象にブックスタートのひろばの後実施しました。子育て支援として気軽に子育てについての質問ができる環境の提供ができました。平成24年度から実施していますが、保健センターの希望もあり、今年度は保健センターから遠い図書館で実施しました。

江坂 2回 参加人数 58名

千里丘 1回 参加人数 24名

山田分室 1回 参加人数 6名

※平成25年度 3館 5回 参加人数 135名

オ 親子で絵本とわらべうた 20回 参加人数 166名

※乳幼児とその保護者を対象に、絵本やわらべうたを楽しむ5回連続講座（中央で

開催)。

(2) 学校連携

平成26年度図書館見学等学校連携事業参加人数			
実績	2,953人	目標値	2,300人

【参加人数内訳】

事業等名称	回数等	参加人数
図書館見学(※1)	27回	1,538人
ごりまる学校訪問(※2)	4回	336人
学校訪問(※3)	9回	932人
職業体験(※4)	27回	147人

- ※1 図書館見学：学年単位で図書館見学を受け入れ、図書館の利用案内、パネルシアター、大型紙芝居、絵本の読み聞かせ、ブックトークによる本の紹介などを行う事業です。町たんけん授業や、職業インタビューも含んでいます。
- ※2 ごりまる学校訪問：自動車文庫の車両で、司書が学校を訪問して、図書館の利用案内、パネルシアターなど先生と相談し実施しています。
- ※3 学校訪問：図書館から各園・校に出向き利用方法の説明や、読み聞かせ、ブックトーク（本の紹介）などを行う。
- ※4 職業体験：市内の中学校から職業体験生を1回1校1～5人、1～3日で受入れ、貸出、返却などのカウンター業務の他、図書を書架に並べたり本にビニールフィルムを貼るなどの作業や絵本・紙芝居の読み聞かせなどの実習を行います。
- ア 団体貸出 303件 6,288冊
- イ ごりまる便 29校 1,101冊
- ※月1回自動車文庫のバスで団体貸出の本を学校に配達し、回収を行う事業です。
- ウ 「もうよんだかな」セットの貸出 22校 5,760冊
- 過去の夏休み文庫で紹介した本（「もうよんだかな？」と「てくてく」に掲載分）を学年に合わせて40冊をセットにして学校に1学期間貸出しました。自動車文庫の車両で配達と回収を行いました。
- エ リサイクル図書の移譲 15校 1,586冊
- 図書館で使わなくなった図書を、市民に提供する前に案内し移譲しました。

(3) 児童会館・児童センターとの連携

図書館で使わなくなった図書や雑誌を移譲し、資料の有効活用を図りました。出前講座を行いました。

(4) 講座・講演会の開催

平成26年度児童文学に係る講座・講演会等の参加者数			
実績	430人	目標値	1,700人

【児童文学に係る講座講演会参加者内訳】

ア 子どもと本の講座

(ア)「イソップ寓話から始まって」 講師 三宅 興子 氏

5回 参加延人数 206人

(イ)「広がれ生まれノンフィクション」 講師 今関 信子 氏

3回 参加延人数 85人

イ 講演会

「第31回子どもと本のまつり秋の講演会」 講師 村上 しいこ 氏

10月26日 参加延人数 59人

ウ 後援事業

「きたむらさとし氏講演会」吹田子どもの本連絡会主催(子どもゆめ基金助成事業)

12月14日 80名

(5) 吹田市出前講座その他講師派遣

児童生徒の読書活動の振興を目的とする出前講座、講師派遣事業参加人数			
実績	708人	目標値	430人

【参加人数内訳】

中央 10回 参加人数 237人

千里 1回 参加人数 51人

さんくす 2回 参加人数 46人

千里山・佐井寺 3回 参加人数 183人

千里丘 2回 参加人数 81人

山田分室 2回 参加人数 110人

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

B

〔成果1〕図書館独自の子育て支援の講座に加え、公民館や児童センター、地域への出前講座、講師派遣を行い、参加人数は目標値を超えました。

〔成果2〕図書館のホームページの「学校支援のページ」を充実しPRに努めた結果、学校への団体貸出やごりまる便の利用は増加しました。

〔成果3〕教育センター等の研修を通じ、学校や幼稚園、保育園の先生が図書館を利用しやすいように案内をしています。「学校図書館図書標準」の達成に向けて図書購入のための情報提供も行いました。

〔課題〕学校への貸出については、自動車文庫の車を活用するなど努力していますが、定期的な物流の確保が課題です。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

〔成果〕子育て支援サービスは全域で継続的な取組みが行われている。保健センターとの連携も成果を生んでいる。

人口36万都市でのブックスタート事業は難しい点もあると思われる。その中でも配布状況が83%は高いと思う。各図書館で“ブックスタートのひろば”“抱っこで絵本講座”などフォローアップ事業が多数開催されている成果だと考えられる。

ホームページ「学校支援のページ」が充実された。

教育センター等の研修、学校、幼稚園、保育園の現場の指導者への支援も努力されている。

学校連携が各図書館で大きなサービス課題として取り組まれているので、その成果が少しずつ実を結びつつある。図書館見学や学校訪問など、子ども達の身近に読書環境のある状況をつくる努力をしている。学校への団体貸出やごりまる便の増加は大変良い傾向だと思う。

また、講座や講演会や研修会は大人対象なので、子ども達へは間接的な活動といえるが、子どもたちと本をつなぐ橋渡しとしての大人の存在は大切なことです。毎年多彩な講師による講演会は他市からも評価されているので、是非続けていただきたい。

〔課題〕図書館協議会は吹田市立図書館の小中高学校への支援はもっとも重要と考えている。学校図書館の資料は児童生徒が自分で調べ、考える、学習センターとして機能するためにある。学校図書館の充実した資料が児童生徒と教員に活用されるには「学校図書館法」に明記されている“学校司書”の配置が充分で適切な状況になることを望みたい。人材の面でも、定期的な物流確保の面でも、取り組むべき課題は多い。子どもの読書活動の推進は地域教育部の努力だけでは進まない。全市的な取組みをおおいに期待している。

児童文学講座での幼児や学齢期の子を持つ親たちの参加の減少が懸念されます。そのような対象者へのアピールに努めてもらいたい。

利用の減少する中高生年代に向けての取組は今後も意識して取り組む必要がある。

充実した学校図書館と市立図書館の環境で成長する自立した吹田市民に育つために、将来を見据えた教育施策の取組みをお願いしたい。

	平成 26 年度 図書館事業評価一覧	自己評価	協議会評価
基本目標 1	地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。		
取組み	1 図書館施設及びサービス網の整備	A	A
	2 利用促進	B	B
	3 資料と情報の提供	A	A
基本目標 2	生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。		
取組み	1 施設や地域との連携	A	A
	2 自己実現の援助	B	A
	3 高齢者・障がい者サービスの充実	A	A
	4 特色あるサービス	B	B
基本目標 3	子育てや学校の支援を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。		
取組み	1 子ども読書活動支援センター機能の充実	B	B
総合評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <p>平成 26 年度は、マルチメディアデイジーの貸出、学校支援サービスの充実及び大阪市との広域連携を実施しました。また、平成 27 年度の摂津市との広域連携開始やシステム移行に向けての準備を行いました。他施設との連携については、三室連携事業や公用貸出の案内を行うことにより、少しずつ成果が上がっています。</p> <p>課題解決型図書館を目指し事業に取り組み、充実したボランティア活動のためのサポートを行い市民協働をすすめていきます。</p>	B	B

	<p>【図書館協議会の評価】</p> <p>「吹田市立図書館基本構想」サービス計画 3つの基本目標のうち「点検・評価報告書」平成 25 年度課題として挙げられた点を 1 点ずつ解決に向けて努力されていることを大きく評価したい。</p> <p>ホームページも大変充実されて、活動内容もよく分かり、知りたいことがトップページで手がかりがつかめるように工夫されている。「吹田市の図書館活動」に紹介されている事業と統計を見ても、「いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービス」をめざしていることが実感できる。</p> <p>中央館を中心に各図書館・分室が地域性を大切にしながら、一体の図書館システム組織として機能している。</p> <p>学校図書館支援が少しずつ実を結びつつある。学校と連携を強化しながら、市行政の中で子ども達の読書推進を大きな柱として育てて欲しい。</p>		
--	--	--	--